

城山中学校におけるSDG s 構想の実現イメージ

<SDG s に取り組む目的>

学校経営の方針キーワード「粘り強く取り組む」「自己有用感」

2030 年は現中学生が 22～24 歳になる時期であり、他地域や他国の人々と交流する際に、「SDG s への取組」は共通言語（共通の話題）になると思われる。そのために、中学生の時期にSDG s を活用した学習に取り組む経験を積むことにより、他地域や他国の人々との交流に対して自信をもって対応できる人間の育成を目指す。

Step1 SDG s を学ぼう

目標・SDG s の基礎知識を学ぶ
 （総合、学活、技術科、外部講師など）
 ・生徒会専門委員会で取り組むことのできる
 目標(ターゲット)を実践する。

Step2 SDG s と城山地区の課題を 繋げよう

目標・城山地区の課題を見つける。
 （あったか活動、宮チャレ、修学旅行など）
 ・課題がSDG s の目標(ターゲット)の
 どれに合致するか考える。
 ・課題解決の具体策を考える

Step3 SDG s の活動を発信しよう

目標・具体策を実践し、まとめる。
 ・他地域、他国のグループと情報交換をする。
 ・実践の見直しと次年度の計画を立てる。

<期待する変容>

生徒	視野の拡大 ・世界的な流れに目を向ける ・世界の課題と城山地区の課題を比べる		主体的な行動 ・地区の課題をSDG s に結び付けて考える ・課題解決のための実践		交流による深い学び ・他地区、他国との情報交換による振り返り ・地域で持続可能な取組の実践

教員	・生徒会活動への働き掛け ・SDG s 出前講座の実施（1，2 年） ・図書室にSDG s コーナーを設置 ・自治会長と生徒による意見交換の実施			

※ 教員は、生徒と地域の変容を結びつける支援・仕掛けを行っていく。【検討事項】

地域	学校活動への理解 ・配付物、HP による周知 ・自治会長への働き掛け		城山地区の課題を中学生と共有 ・城山あったか活動による共通理解の促進 ・自治会単位での活動の推進		地域を支える人材の育成 ・地域の住民と協働した取組による育成 ・地域の取組を協働してPR する活動

